

事例研究報告

特別支援学校小学部児童の 情緒の安定に関する指導について

児童の実態

- ・ 自閉症・知的障がいのある小学部男児。
- ・ 全日提示の文字スケジュールを使用している。活動の追加・変更・削除を理解しているが、活動後に不安定になることが多い。
- ・ 登校時から独語が多い、活動するペースが速い、テンションが非常に高い等の様子が見られる日は、不安定になる頻度が高い傾向にある。
- ・ 訂正・やり直しや、失敗する・間違うことが苦手不安定になる。
- ・ 指示されることに抵抗感が強い。
- ・ 褒められることを受け入れられないことがある。
- ・ 不安定になると、物にあたったり、人を叩いたり、わざと放尿したりする。
- ・ 特定の女児の胸やお尻を触りに行く行動が見られる。触らないという約束を重ねることで、少しずつ回数は減ってきている。
- ・ 近くにいる人の腕あたりを何度も軽くタッチする。(不安定になっている時は増える)

保護者の願い

「適切な要求をしてほしい」



- ・落ち着いて活動できる時間を増やしたい。
- ・不適切な身体接触を減らしたい。

教員の考え

- 不安定になる回数を減らしたい。
- 訂正・やり直し時に落ち着いて活動できる。
- 不適切な身体接触を減らしたい。



アドバイザーからの助言

- 訂正・やり直し時に不安定になる理由として、自信のなさや自己肯定感の低さが考えられます。そのため、自己肯定感をあげるような支援をしましょう。
- 不適切な行動に代わる適切な行動を示すことから始めましょう。



指導目標の見直し

- 自己肯定感を高める。
 - やり直し・訂正等を本人が受け入れられるように、トークンエコノミーシステムを活用する。
- 不適切な行動に代わる適切な行動を示す。
 - 人の腕や足等に勝手に何度も触ってしまっている不適切な接触に代わる行動として、手のひらへのタッチを勧める。

指導1:トークンエコノミーシステムを活用し、活動に取り組む

やり直し・訂正を受け入れるための指導

→ 朝の準備時や課題中などに場面を設定して指導する。トークンエコノミーシステムを活用し、やり直しや訂正を受け入れて最後まで活動に取り組むことができれば、本児の好きな菓子や写真等が貰えることを事前に説明してから活動に取り組むようにする。

指導2: 教員の手のひらにタッチする

不適切な行動に替わる適切な行動を示す。

→ 課題の際に教員や友だちにタッチしようとした際、教員が手のひらをさしだして、そこにタッチするように自然と促す。物にあたったり、他の身体の場所にタッチすることを我慢できた場合は賞賛する。般化場面を増やしていく。

記録方法と記録

☆ 記録1

1日の中で、不安定になった時の先行条件・結果・対応の仕方について記録。不安定になった際のイライラ度を以下の条件で判断し、数値化。

- 1 大きな声を出す, 近くにある物を軽くたたく
- 2 人を触る, 物を投げたり物にあたったりする
- 3 人をたたく
- 4 強く人をたたく
- 5 何度も人を強くたたく, 号泣する(人や物にあたることを何度も繰り返し, 切り替えるまでに時間がかかる)

☆ 記録2

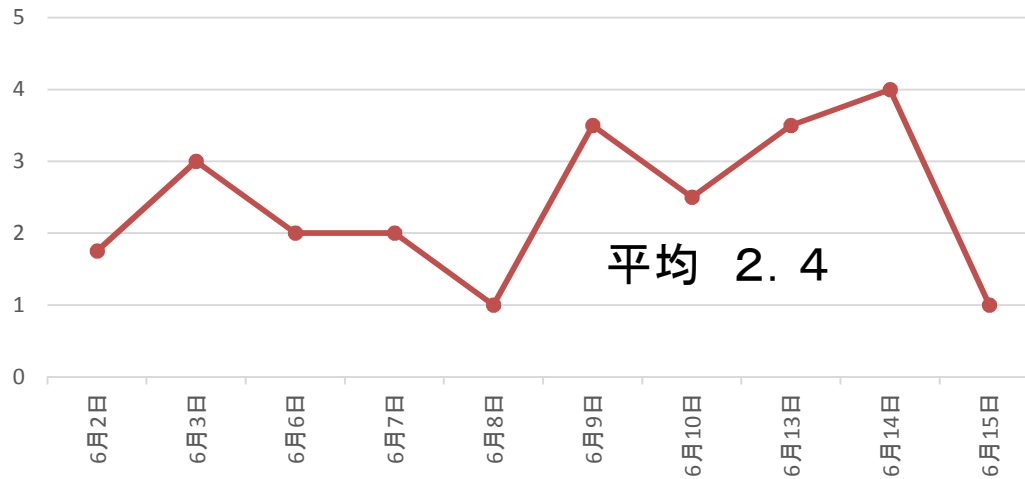
1日の中で、不安定になった回数を記録。

☆ 記録3

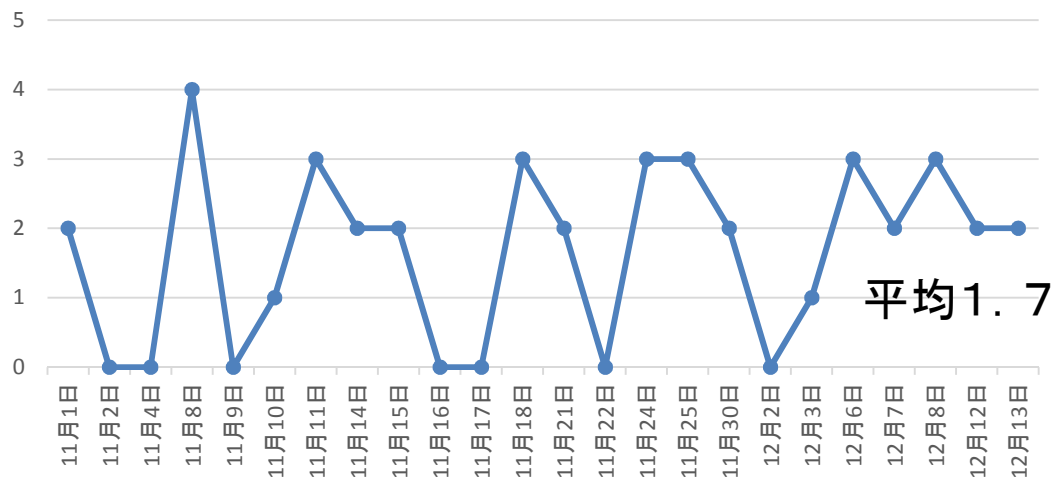
課題中に手のひら以外に触った回数を記録。

指導1の成果

指導前 いろいろ度数



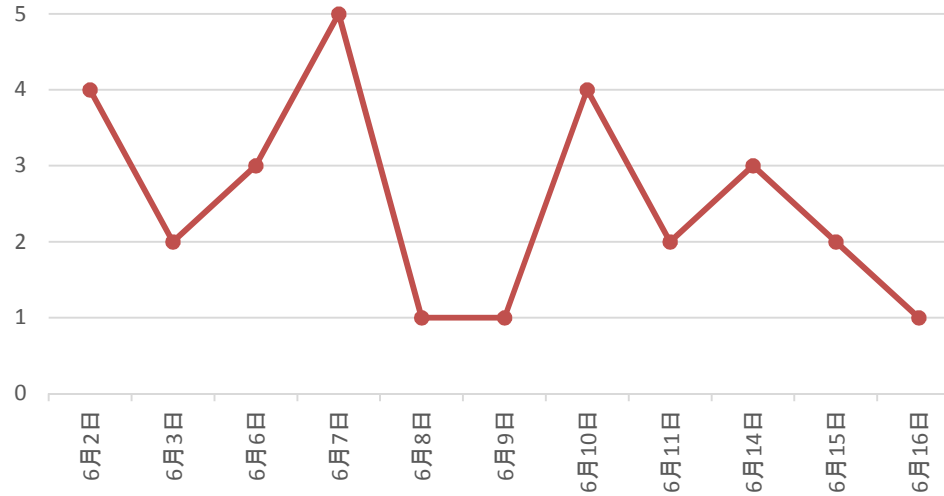
指導後 いろいろ度数



指導1に関しては、トークンエコノミーシステムや褒められるなどのことへの抵抗感がみられたため、情緒の安定には繋がらなかったです。今後、本児が受け入れられる褒め方やフィードバックの方法を探していく必要があります。

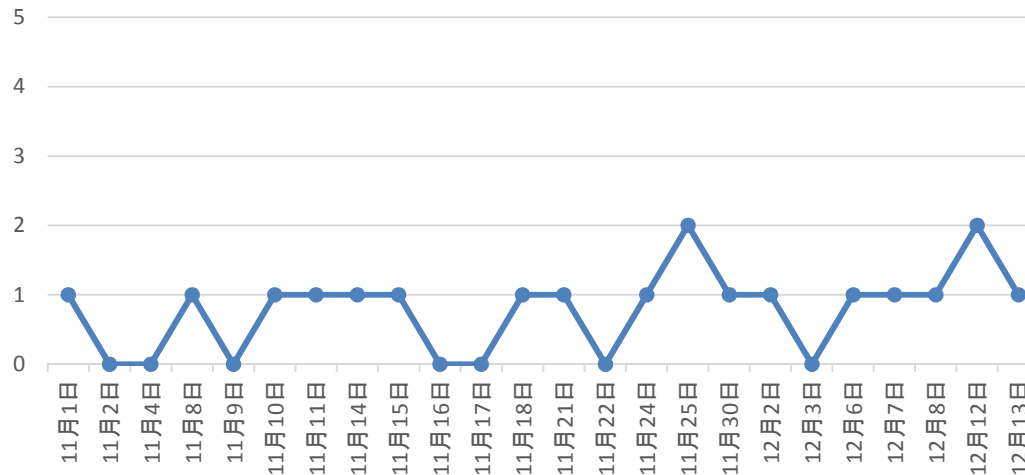
指導1の成果

指導前 不安定になる回数



平均 2.5

指導後 不安定になる回数



平均 0.8

指導2の成果

不適切な接触への代替行動として、手の平へのタッチを勧めたことで、少しずつではあるが、他の人に触りたい時に児童の方から「タッチ」と要求を出せるようになってきています。

	11/1	11/2	11/4	11/8	11/9	11/10	11/11
手のひら以外に触る	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回
	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	11/21	11/22
手のひら以外に触る	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回
	11/24	11/25	11/30				
手のひら以外に触る	0 回	0 回	0 回				

ここが成功のポイント



○ 手のひらタッチという形で身体的接触が教員に受け入れられたことで、児童の安心感や自己肯定感に繋がった。結果として、生活全般に良い影響を与え、問題行動や不安定になる回数も減り、やり直しや訂正も落ち着いて受け入れられる場面が増えてきている。